

活躍人訪問

vol.76

今回の活躍人

飯田哲也さん

16歳。きもの教室を開いている伯母の影響で興味を持ち、きもの装いを習う高校生。昨年11月に秋田県能代市で開催された「全日本きもの装いコンテスト東北大会」の男性の部で優勝。今年4月9日に、東京都で開催される世界大会へ出場する。



■1年前からはじめた

「きもの装い」

飯田哲也さんは本宮市在住の高校2年生。一見普通の高校生ですが、彼の特技は「きもの」。郡山市で、きもの教室を営む伯母さんの勧めで始めたという飯田さん。最初にきものを着たのは、中学生のころ、伯母さんに頼まれてきものイベントに出演したときでした。

それをきっかけに着物文化のすばらしさに気づかされ、約1年前、伯母さんのきもの教室で本格的にきもの着装について学び始めました。「きものを着ると身が引き締まる思いがある」と話す飯田さん。始めてわずか1年で、「きもの装いコンテスト」の東北大会で優勝。4月に開催される世界大会への切符を手に入れました。

コンテストはステージ上の参加者がある場できもの着装を行っていく、その様子を16人の審査員が審査をしていきます。審査は、手さばきや立振舞い、仕上りの美しさ、素早さなどを見られます。ただ早

和の文化に関わっていききたい

くても、動きが粗雑であったり、遅すぎてもいけません。約3分以内で着替えるのが理想とされていて、飯田さんも東北大会では2分40秒で着装しました。練習にも余念はなく、日曜日には自前のきものを必ず着て、家族に見てもらったり、ストumpahでタイムを計ったりしています。「やるなら世界一を目指してがんばりたい」そう思い、練習を続けています。

■日本文化の良さ

飯田さんはきものに限らず、日本文化好き。世界からみた日本が知りたくて高校の留学に応募して、カナダへ行ったこともあります。「改めて日本のすばらしさを知ることができた」と語ります。

また、小学生のころから日本史が好きで、よく歴史ものの本を読んでいました。中でも近代史・太平洋戦争近辺の歴史に興味があるそう。まだまだ歴史の真実になぞが多く、「大学に進学しても学んでいければ」と話していました。

つむぐこころ おりなすはなし



最終話

あだち地方地域自立支援協議会
生活支援部会

～障害者差別解消法について～



生活支援部会
大藤 恵美子さん

「今回は、福祉マンガの最後ということので、平成28年4月に成立した「障害者差別解消法」について説明します。

この法律は、日本が平成26年に世界で143番目に批准（ひじゅん）条約や協定を最終的に国として確認・同意することとした障害者権利条約のために整備された国内法です。

障害者権利条約は「私たちのことを、私たち抜きに決めないで」と「他の者との平等を基礎として」という言葉がキーワードであり、あらゆる障がい者の尊厳と権利を保障するための人権条約です。

そしてその条約の中には、次の4つが差別と規定されています。
① 区別されること、② 排除されること、③ 制限すること、④ 合理的

配慮を行わないこと。この4つを日本でどのように位置づけるかを決めた法律が、障害者差別解消法なのです。

障害者差別解消法の目的には「全ての国民が、障がいの有無によつて分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指す」と書いてあります。

特に「相互に」というところが重要で、なぜかというところ、障がい者差別が起きた時、差別してやろうとした場合は論外ですが、ちょっと今忙しくて対応できないのだけに対応できないとか、障がいについて全く知らなくて差別のようになってしまう場合、その行為を一方的に糾弾するのではなく、お互いの事情や支援できる範囲を話し合い、解決の糸口を見つけていこうというのが法律の趣旨なのです。基本的な考え方として

は、相互の理解によってできることを探っていく、そして実現しようというものです。生活のあらゆる場面で障がい者と向き合つて対話で決めていくことが大切で、「差別の解消は「対話」である」と、この法律は主張しているのです。

皆さんも家族や職場の同僚との対話を大切にしていきますか。対話をする事で理解は深まるのです。同じ人間なのでから。

あだち地方地域自立支援協議会とは？

本宮市・二本松市・大玉村の2市1村で構成され、地域の障がい福祉に関わる関係者の連携や支援体制などについて協議を行う会です。

問 社会福祉課 社会福祉係 ☎ 24-5371



■建物にはこだわりたい

マイホームは、土地にはお金をかけず、建物にこだわりたいと考え、ハウスマーカーに相談したところ、この場所を紹介してもらいました。建物にお金をかけることができたのはもちろん、交通の便がよく、妻と私両方の実家に近いこともこの場所を選んだ決め手でした。また、妻が仕事を探していたところ、本宮市内で見つけられたのもよかったです。

■子育てに最適な環境

住んでみると、自然豊かで屋内屋外に遊ぶところもたくさんあるので子育てにぴったりだと感じました。周りには同世代のお友達も多く、学童保育や延長保育も充実しています。毎週、岩根公民館で行われている遊友クラブでは、子どもたちが、地域の皆さんから団子さしのような季節の行事や押し花などを教えてもらっています。



藤原弘文さん ご一家

弘文さんは川俣町、奥さんの景子さんはいわき市出身。長女の恋ちゃん歩ちゃんとの4人暮らしです。岩根地区在住で、27年に家を建て、移り住まれたご家族です。

移住・定住ポータルサイトでは、本宮市内の不動産や仕事、子育て情報、移住者の声などを掲載しています。
<http://www.city.motomiya.lg.jp/site/teijyu/>

